

# ひとりにいい、みんなにいい

## ユニバーサルデザイン



対象 小学校4～6年生

関連する  
教科 4年生国語  
6年生社会

総合的な学習の時間

ねらい

- ・年齢、性別、国籍、障がいの有無などの多様性に関する理解を深める。
- ・ユニバーサルデザインについて学び、自分たちができることを考え、行動するきっかけを得る。

高齢化が進む日本、2030年には人口の3人に1人が60歳以上の高齢者になると予測されています。また、現在、世界の約15%の人が何らかの障がいを持っており、その比率は年々増加しています。

「衣食住」の“住”にかかわるLIXILとして、子どもからお年寄りまで世界中のひとりひとりが豊かで快適な住生活を送ることをめざすユニバーサルデザインを子どもたちに伝えます。

街や家に施されている身近なユニバーサルデザインを知ること、障がい者、高齢者などの多様性に関する理解を深めるとともに、自分たちができることを考え、行動する力を身につけるきっかけとなることを目指しています。

指導案  
45分  
×  
2コマ

### 1時間目

#### ●多様な人々が暮らす社会(15分)

日本の人口を100人に縮め、多様性や個性の違いを学びます。

##### ワーク ①:もしあなたが外国に行ったら?

看板の文字が分からないとき、何が書いてあれば迷わないか考えます。自分自身も多様な個性を持つひとりであることを確認します。

#### ●ユニバーサルデザインの工夫(30分)

街や家の中のユニバーサルデザイン製品を「わかりやすい」「使いやすい」「安全・安心」の3つのポイントを通して学びます。

##### ワーク ②:伝言ゲーム

耳の不自由な方への伝え方をゲーム形式で体験することで、相手の立場に立って考える事の大切さを確認します。

### 2時間目

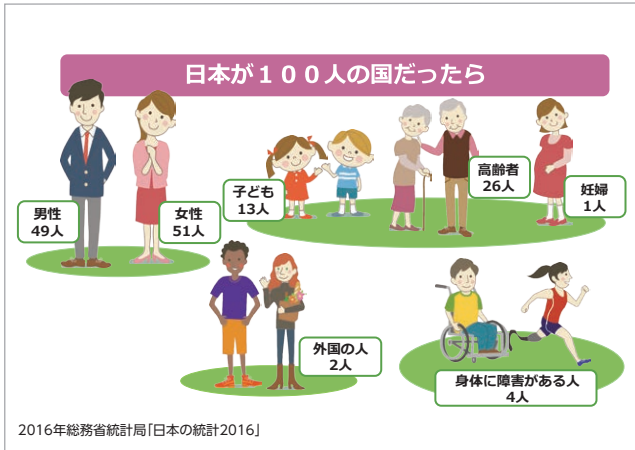
#### ワーク ③:探してみよう。多機能トイレの工夫(30分)

街中の多機能トイレのさまざまな工夫を班ごとに意見交換しながら見つけていきます。そしてそれらを必要としている人のことを考え、障がい者や高齢者への理解をより深く、自分ができることを考えることのきっかけとします。

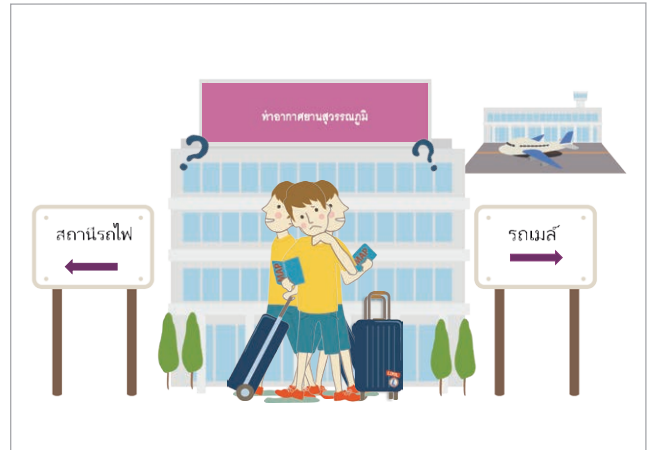
#### ●まとめ(15分)

本日の学習内容、ユニバーサルデザインについて振り返るとともに、話すことば、年齢、性別、障がいの有無などにかかわらず、よりひとりが快適に暮らしていける社会になるため、自分たちができることを考えてもらうようメッセージを伝えます。感想や気づきを書いてもらいます。

## 授業教材



日本の人口を100人に換算して、性別や年齢、国籍など、多様な人が暮らす社会であることを学びます。



外国に行った際、何が書いてあれば迷わないか、考えることで、自分自身も多様な個性を持つひとりであることを確認します。



身近な家の中の製品が、さまざまな立場の人にとって使いやすいように進化していることを伝えます。



多機能トイレを例に、どこがどのように工夫されているのか、グループで意見交換しながら工夫点を見つけていくことで、それらを必要としている人のことを考え、障がい者、高齢者などへの理解をより深めていきます。

## 授業を受けた子どもの感想

さまざまな人がいること、私たちと生活していく中のうらで一生けんめいに「どうしたらみんながくらしやすくなるのだろうか」と考えている人が自分の身の周りにはいる、ということがすごいい었습니다。

今までに「人をたすける」と言うことを田舎でしかしたことないからで、2つ目は「あまり人をたすける」と言うことが自分も、相手の人にも嬉しいことである。なぜなら今までに「知らない」をたすけるというのを、不思議に思っていたからです。これからは人のことを思いやり、生活していきたいです。

ユニバーサルデザインがどんな物なのかと、どのようなものがあるのかよく分かった、楽しかった。

ユニバーサルデザインは、「だれもが暮らしやすい街づくり」に大切な物だということがよく分かった。

## 先生の感想

東京都 小学校の先生

映像、クイズ、グループでの話し合いなど、いろいろな活動があり、児童が大変興味をもって取り組んでいました。内容も難しすぎず、とてもわかりやすかったです。取り上げた事例が児童に身近にあるものでよかったと思います。